

KS KR パンジーだより No.52

クリエイティブハウス 「パンジー」 発行 2004 年 6 月

3月・4月は胃が痛い！

今、かえる会では、4月のこと、いろんなことを考えています。パンジーからパンジーⅡやハートに変わるメンバーのこと、4月からの職員の動き方、グループホームの引っ越しのことも、かえる会の中で、みんなで考えています。

メンバーのことでは、パンジーとパンジーⅡとハートのメンバー全員に、毎年のように「4月からどこで働きたいかアンケート」をとりました。パンジーの2人が、パンジーⅡとハートで働きたいということで、ハートに来たい人には、4日間ハートを体験してもらいました。体験が終わった後に、ハートで考えて「ちょっと難しいかな」「やる気はあるなー」「やればできるんじやないか」と思って、4月からは、毎日ではないけど、週に何日か来てもらうことになりました。パンジーⅡに行きたい人も、3日間の体験をしてもらって、パンジーⅡのみんなで考えて、それで4月から、パンジーⅡに行くことになりました。

職員のことでは、4月から職員はむちゃむちゃ変わります。林さんと、豆子さんと生田さんとオレで、職員の面接をしました。これは4月からの体制に向けてやっていました。去年は、かえる会のみんなで面接をやってみて、今年はちょっと変えようかなあと思って、やりました。忙しかったから、生田さんとオレは交代で入りました。面接では、職員がはっきりと言ったから、「まあ、本音出たなー」と、よかったです。本音を聞いて、ちょっとビックリしたこともあったけど、良かったです。その時に、「はたらく場所を変えたい」という意見をいくつか聞きました。そして、4月から、パンジーとパンジーⅡとグループホームの職員がころっと変わります。ハートはこのままです。職員のみんなから「もう一年、がんばる」と聞いたから、それは安心しました。がんばってほしいです。

グループホームもいろいろ引っ越しがあります。引っ越しをしたいという意見があつて、思い切って引っ越しすることになりました。グループホームのメンバーが入れ替わります。4月には新しいグループホームもできます。また、砂川センターという入所施設からグループホームに1人、新しく来ます。

4月から、いろんなことがころっと変わります。ころっと変わったことは、はじめは不安やと思います。まあ、時間がたって慣れてくると思います。

2月、3月は考えることが多いです。僕は考え事があると胃が痛くなります。今も胃薬を飲んでいます。4月からは、楽しくゆっくりとやっていきたいと思います。 (梅原義教)

「みんながいい支援者になればいい」

～元気のできるアンケート調査にご協力ありがとうございました！～



2003年10月から「元気のできるアンケート調査」と題して、各地の知的障害当事者にアンケート調査を行ってきました。

アンケートの内容は当事者たちが中心となってプレ調査を実施しながら練り上げました。そして当事者が当事者の顔をみながら質問し、答えていきました。「アンケートのなかには、支援者のいやなところも聞くことがあります。近くにその支援者がいると、言いにくいと思います。」との当事者の意見から、支援者には席を外してもらいました。

初めてのアンケート調査地は徳島と香川。続いて沖縄、鳥取と続き、関西地区のいろんなところに調査に行きました。そして、合計207人の当事者に調査を行うことができました。ありがとうございました。どうして

このアンケート調査をしようと思ったかというと…。当事者からの依頼の手紙を紹介します。

「知的障害をもつ人たちへの実態調査」にご協力お願いします 😊

今回の企画は、社会福祉・医療事業団からお金をもらってやっていきます。わたしたちは、全国のなかまが地域の中で、自分らしく、楽しく生活しているのか、しりたいと思いました。わたしたち、当事者の声は、まだまだ地域の中に届いていないように思っています。わたしたちは小さい頃から、親や職員、学校の先生など、いろいろなことを決められてきました。自分たちはいつも「がまん」させられてきました。でも、今のわたしたちは、ちがいます。もう「がまん」しません。少しづつ、自分たちで声をあげています。「あんなことしたい」「これがいい」「こういうのはやめてほしい」。

みなさんは、どうですか？みなさんは、自分の意見を、いえてますか？

そんなことが知りたくて、全国の人に、「アンケート」をしたいと考えています。集まったアンケートの結果を、本にしたいと思います。できた本は、全国各地にくばつて、いろいろな人に見てもらおうと考えています。

わたしたちが、とくに見て欲しいなと思っているのは、支援者の人たちです。支援者に、もっと私たちが何を考えているのか、知って欲しいと思っています。

そしていい支援者にかわってほしいと思います。わたしたちは悪い支援者はいりません。みんながいい支援者になればいいと思います。



元気の出るアンケート調査をして



表さん・・先にアンケートを書いている人がいたので困った。どうしたらいいかわからなかった。いろんなところに行って勉強になった。また行きたい。いろんな人と友だちになれるから。(大阪) 工房の人はゆっくりで時間がかかった。

福田さん・・楽しかった。沖縄の人優しかった。GH広かった。たんぽぼより、お風呂も広かつた。大阪の人も優しかった。お昼ご飯おいしかった。

山下さん・・入所施設はいややなと思った。住みたくないと思った。何かくさかった。

アンケートは楽しかった。大沢たみさんと初めは話ができなかつたが、大沢さんが話しかけて話ができる、後は笑つてた。アンケート初めは緊張してたが、だんだんなくなってきた。「次いってみよう!」と言つてた。またアンケートがあつたら参加したい。

西尾さん・・人に気を遣つたのでしんどかった。入所施設に入っている人は、よく我慢しているなと思った。もっとみんな自身で自分たちのことを考えたらいいのに。給料やお小遣いなどが平均 800 円の人がいてびっくりした。

平石さん・・アンケートは簡単だった。結婚している人がいたが、自分で難しい。

給料が 1 万 5 千円の人がいた。私も欲しい。沖縄は料理やオリオンビールがおいしかった。

生田さん・・北海道の土本さんと滋賀県の山城千絵美さんと徳島と香川に行った。香川の人たちは、ぼちぼちアンケートに答えてくれた。徳島は、ものすごく元気な人ばかりだった。アンケートのペースもとても速かった。こっちがアンケートを読んでいるうちに、どんどん進んでいった。小遣いのことや、給料のことを聞いた。

アンケートが終わつた後、帰りしなに一緒にご飯を食べに行けたので、友達ができたみたいで良かった。今年のピープルファーストの徳島大会で、また会えたらしいな。

山田さん・・沖縄には初めて行った。11月はピープルファースト大会の準備が忙しかつたのでアンケートの練習をする暇がなかつた。沖縄でぶつけ本番だったので、ちょっとあがつた。最初の夜の交流は楽しかつた。アンケートにたくさん答えてくれてよかったです。

他に奈良にいった。もう 1 回、別の所にアンケートに行きたい。

肌勢さん・・鳥取は寒かったな。アンケートは、みんなあんじょう答えてくれた。鳥取の人たちは、みんな明るい人たちだった。他にも大阪の高槻に行って知らない人たちにアンケートをした。奈良には知つている人が少しいた。いろんな所に行ってちょっと疲れたな。

小松原さん・・鳥取は僕より年上の人をアンケートするので緊張した。雪がすごかつた。そして最後の 3 日目のアンケートでは大阪出身の人がいて、うさぎ小屋を見せてくれた。相手の人が終わつたかどうかを聞くために「できましたかー」と聞いたら女の人が「はい」と答えてくれた。大阪では高槻市の作業所を行つた。どんなところやーと思って行つたけどよかつた。

西淡路のハニカムに行ったときは晩ご飯を食べて來た。アンケートでいろんな人にあって緊張したけど、頑張れた。



おどりやにやそんそん! 土地土地の観光も楽しんだ

昨年 12 月に厚生労働省から、「平成 16 年度に向けたグループホームの事業運営の見直し（案）」が示され、私たちグループホーム関係者は大きな衝撃を受けました。全国から仲間が厚生労働省前に集結し抗議行動を行ったところ、見直し案は白紙撤回となりました。しかし、喜んではばかりはいられません。グループホームは障害者が地域で生活をする上で大切な柱になる制度です。にもかかわらずグループホームをめぐる課題は山積みです。

重度障害者が暮らすグループホームの支援費単価や、職員やスタッフの支援体制の充実は大きな課題です。また、物件についても費用の面からも確保の面からも苦労しており、公営住宅の利用促進策なども重要課題といえます。

D P I 日本会議・横浜市グループホーム連絡会・ピープルファースト大阪・全国グループホームスタッフネットワーク・障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議を中心となつて、以下のような要望書を厚生労働省に提出しました。

厚生労働大臣 坂口力 様

1. グループホームをめぐる課題について幅広く重度障害者の実態を反映させていくために、障害当事者を中心とした私達との定期的な「協議・学習の場」を設定し、全国的な課題を集約するとともに、課題解決に向けた手立てを講じていくこと。
2. 「協議・学習の場」の検討内容・プログラムについて、私達と検討すること。
3. 以上の点について 2004 年 2 月中に私達との協議の場を持つこと。 (一部抜粋)



グループホーム・福祉ホームの制度充実を求めて!



上記団体が中心になり「グループホーム・福祉ホームの制度充実を求める全国連絡会（以下、連絡会）」を組織しました。この連絡会は厚労省の GH 支援費の見直しが進められようとする中、知的・身体・精神の 3 障害のグループホームや福祉ホームの制度を拡充させていくために「全国的な GH 運動のつながりを作っていく必要がある」との想いから呼びかけたものです。

現在はゆるやかな組織なので、会費は無料です。月 1 回メーリングリストにて情報をお届けいたします。連絡会への登録を希望する団体は、パンジーⅡまでご連絡ください。

できればメールでお願いします。

| | |
|--------|-----------------------|
| 電話番号 | 0729-60-3610 |
| ファックス | 0729-60-3613 |
| E-mail | info2@pansy-net.or.jp |



問題になっている行動 Ⅱ

中新井 澪子

7 年前に一度、「問題になっている行動」について書いたことある。あれからパンジーにも新しいメンバーが増えた。また、知的障害の伴わない自閉症者が自分たちの「生きにくさ」について語られることも多くなつた。一方で脳の研究も進み、仮説ながらも障害の部位や症状形成の機序が明らかになりつつある。そんな今、もう一度「問題になっている行動」をゆっくり考えてみたいと思う。

『パンジーだより NO.23』では、その行動の原因として①要求を通そうとする意志または通らないことへの反応、②状況が理解できないための困惑や回避の表現、③周囲の無関心に対する反応、④独別な感覚や状況への強いこだわりの表現をあげている。そして突発的に見える行動も必ず誘因があるので、事前に察知したいとも述べている。誘因として考えられるのは、嫌悪や恐怖の体験が呼び起こされるフラッシュバック、本人が刺激的・挑発的と感じる物音や言動、睡眠不足、暑さ、かゆみなどの身体的不快感などである。

パンジーのスタッフも、メンバーと一緒に過ごす時間が長くなれば、これらの原因や状況について把握できるようになってはいるが、それでもなお、執拗なこだわりや他のメンバーへの突然の攻撃的行動には日々苦慮している。

Nさんは、突発的につかみかかり、スタッフやメンバーの髪を強くひっぱる。直前であれば「大丈夫」「関係ないよ」の言葉が効果的で、かなり行動を抑制できるようになってきたが、それでも突進してしまうこともある。原因は初めての人や、刺激的な音や声への反応であることが多いのだが、どうしても、そのきっかけがつかめないこともある。何かが気に入らないのではなく、もしかしたら「何かがしたい」「不快感を何とかしてほしい」という、その場の状況とは関係のない要求や、感情の訴えもありうるのではないか。彼はやりたいようにやっている風でいても、彼からスタッフへの自発的な要求や訴えはあまりにも少ないからだ。

スタッフはNさんの他害行動を抑えるために「大丈夫」をキーワードにしたり、一人で落ち着ける小部屋を用意したりしてきたが、今回は彼からの発信をキャッチする工夫を考えることにした。彼は聞くより読む、話すより書く方が楽かもしれない、いつも紙とペンを用意して筆談をする。また、いくつかの要求を書いたカードを作り、意志表示しやすくするなどである。

次に考えられるのは、要求を表現する方法が分からなくて困っているというより、何らかの理由で躊躇している場合である。激しい自傷行為があった O さんの時も、要求への抵抗や葛藤一素直に要求や意志が出せない何か一があるよう思った。今、彼は強引すぎるくらい、はっきり意思表示する。そして頬のアザはすっかり消えてしまっている。

問題行動の原因に「気持ちや要求を伝えることへの抵抗や葛藤」を付け加えることにしたい。これは難題である。続きは次回に・・・。



2003年度 対市交渉を終えて

2月19日に、「パンジー」・「パンジーⅡ」・フレンズ・RAN（ラン）・リサイクル「ラン」・らくらくハウス・自立支援センター「ぱあとなあ」からなる「つばさグループ」と、東大阪市の福祉部を中心とした障害福祉施策に関する担当部署との間で交渉の場を持ちました。

今年度は、障害者の地域生活を支えるための新障害者プランについてや、昨年4月から始まった支援費制度のこと、東大阪市の障害者就業などで、たくさんありましたが、中でも、東大阪市市内に建設が計画された入所施設については、大きな重点項目でした。

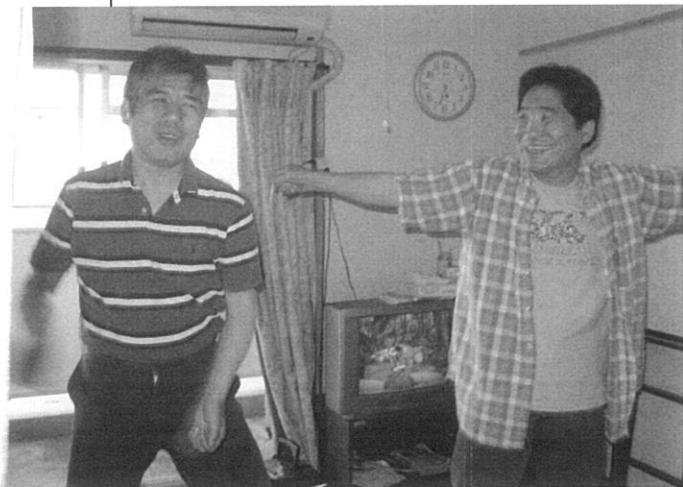
<当事者の感想>

- 入所施設を作らないでほしい
- 私は入所施設に入りません!
- 「仕事がしたい」と伝えた
- 「市役所で働きたい」と言った
- 東大阪の人は何も分かってないなあ、と思った

今回は入所施設反対についての話が大きく取り上げられました。当事者の人をはじめ、いろいろな人が次々に声を上げました。中でも入所施設に自分の娘がいる当事者的人が、涙ながらに大きな声で「娘と暮らしたいんや！」と訴えていたのが印象的でした。どれだけ訴えても「検討します」という東大阪市の返答には、私も本当に腹が立ちました。しかし今回の交渉の甲斐あってか、入所施設建設は中止になりました。行政の人は対市交渉などで当事者の声を聞き、東大阪の政策を少しずつでも当時じゃ中心に変えていくことは大切だと思いました。（うえなか）



「とてもいいじゃん」



真夜中のラジオ体操を再現してくれるはだせさん（左）と
野村さん（右）

野村信久

3月31日で、砂川センターを卒業しました。グループホーム「てくてく」で今は、はだせさんと、へやでいっしょにいています。僕は自分のへやでCDとかテレビ、ビデオとか見たりおんがくを聞いたりしています。「てくてく」はとても「わかばりょう」にくらべて、とてもお城みたいでとてもすごしやすいです。

はだせさんは、たばこをよくすっています。てくてくで、はだせさんは12時ころインスタントの焼きそばを食べています。はだせさんはとても変わった人です。夜、はだせさん

はラジオ体操をしています。僕がラジオ体操を教えてあげました。神戸南京町では、はだせさんは王将へ行ってラーメンセットをたべました。

僕はマウンテンバイクを買いました。僕は容院で髪の毛を染めました。とてもいいじゃん！

「大阪府の大規模入所施設再編計画」と東大阪市の現状

1、経過

大阪府では、府立の大規模入所施設「金剛コロニー」「砂川厚生福祉センター」などの入所者の定員を減らすために福祉圏域単位で各地域に「小規模」入所施設をつくろうとしている。

2005 年度に中核市になる東大阪市では、この計画の 1 番手として、金剛コロニー、大阪府、東大阪市の 3 者のもとで入所施設建設の計画がすすめられていた。そうした計画が去年の終わりに明らかになった。

東大阪市では、2002 年 12 月から進められていた「東大阪市新障害者プラン策定小委員会」において、残りあと 2 回となった 2004 年 1 月の委員会で「障害者が地域の担い手のひとりとして地域活動等に参加したり自らの意志で地域のなかで自由にさまざまな活動ができるように基盤づくりをすすめます」

という部分が、事務局で下記のように変更された案が提出された。

「入所施設については、地域生活への移行に向けたサポート機能を果たせる資源としての位置づけをし、必要な整備検討を行います」

障大連と「パンジー」で、再編計画の白紙撤回を求め、大阪府と協議を重ねていった。今年の 2 月にあった東大阪市と「つばさグループ」の交渉においても、当事者側からの激しい反対の声が挙げられた。

結果として、コロニーの再編計画に伴う東大阪市の新規入所施設の計画は「自然消滅」となり、新障害者プランにおいても問題の文面は「既設の入所施設については、地域生活への移行に向けたサポート機能を果たせる資源として位置づけます」と変更された。

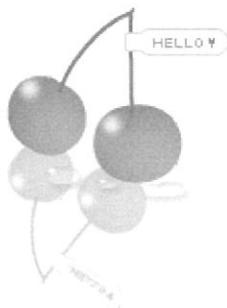
2、東大阪市での地域移行

大阪府と協議を重ねる中で、パンジーが提案した地域移行のプランに乗る形で、大阪府から「砂川療育センターの当事者を受け入れてもらえないか」という話になった。

当事者の意思確認も含め、3 月中旬に体験的にグループホームに宿泊、通所施設を利用し、当事者自身も乗り気になった。砂川を退所し、4 月からパンジーでグループホームと通所施設を利用している。

これから、東大阪市全体で「地域生活支援システム」をどうつくっていくかが大きな課題である。その中で、東大阪市民でありながら制度の不十分さを理由に入所施設での生活を余儀なくされてきた人たち一人ひとりの暮らしをつくることを支援していきたい。

はっしんきち ザ☆ハート (生田進・福岡暉)



デイサービスより

「デイサービス」を始めて 1 年が経ちました。今回初めて『パンジーだより』に登場するので、この 1 年間の活動内容と利用者メンバーの様子を紹介します。

去年の 4 月、デイサービスは、それまで毎週木曜日に行っていった在宅の人たちの集まり「かきルーム」の活動を、火・水・木の 3 日間にしてスタートしました。かきルームは地域で暮らす在宅の人たちが孤立しないよう、当事者リーダーの I さんと職員で家庭訪問をし、外へ出てくるよう誘ってきました。現在、家族と暮らしている人、一人暮らしの人、他の施設のショートステイで生活している人など 10 数名の人が利用しています。

利用はできるだけ長期に渡らず、将来的に就職を探したり、作業所などに通えることを目標にしています。

デイサービスでは、調理・園芸・外出・陶芸・ビデオ・カラオケ・「元氣がでるはなし」・「ピアカウンセリング」などの活動を行っています。春には、ザ☆ハートの人たちと「お花見＆バーベキュー」、夏には家族も誘ってのバーベキュー、秋には「ピープルファースト大会 in 滋賀」に 8 人参加し、冬にはクラブカフェでのクリスマスパーティに参加と、季節ごとの行事にも積極的に参加してきました。利用者の人たちは日々の活動や仲間とつながりを作る中で、少しづつ自信をつけ、表情が明るくなっているのを感じます。最近は「恋の出会い」があった人もあり、家族に話をして理解を求め、「結婚」を目指してがんばっています。皆で応援しています。

これからも、ひとりひとりが地域の中でいきいきと生活できるよう、自分の生き方を自分で決める力を發揮できるよう、関わっていきたいと思います。
(にっしやん)



奈良公園にて。鹿と遊んだよ～。



陶芸教室。



一人ひとりの発言に、拍手！

就労支援の現場から

ジョブコーチとして働くようになって一年が経ちました。ジョブコーチとは障害者の方が働く職場（雇用前実習も含みます）に直接訪問して、うまく仕事をしていくように仕事の段取りを考えたり補助具を作ったり当事者や職場の方の相談に乗ったりといった様々な調整をする仕事です。

就労支援の特殊な点はいくつかありますが、当事者支援と同じく、場合によってはそれ以上に事業主に対する支援が重要であるということです。職場では障害者と話をするのも初めてという人のほうが多く、特に地位が上の方ほどその傾向が強く現れるようです。上司との関係がうまくとれていない当事者は本来の力を發揮できないことも多く、そういったときに「彼（彼女）にはもっと違う仕事が合っているのでは」というやんわりとした雇用継続のお断りを頂く場合もあります。裏を返せば職場側のSOS。ジョブコーチとしてはなるべく本音で語っていただけるように職場と信頼関係を作らなくてはなりません。そうしてお話をさせていただく中で、本人とどう接したらいいのか、どう伝えればいいのかといった職場側の悩みを聞きだすことができたり、時には職場の当事者以外の問題についてご相談を受けることもあります。

中には差別意識・先入観丸出しのところもあり、しかも障害者を多数雇用している会社に差別がないとは限りません。また仕事そのものも、それでいいの？と思わず聞きたくなるようなやり方をしている職場もあります。そこで真っ向から異論を申し立ててしまうと、当事者が職場にいづらくなったり、場合によっては採用自体が危うくなりますから、よほどのことがない限り会社の常識を尊重しなくてはなりません。

障害者雇用とは「健常者が」障害者と共に働く意味を問われることだと思います。私たちは、目の前にいる当事者と明日から同僚として働くことになったら、と考えたことがあるでしょうか。様々な場面で私たち支援者は当事者の声を代弁して当事者の権利を勝ち取ろうとしています。しかし逆に自らが障害者に門戸を開く立場にたったとしたら…そう想像するとき、障害者雇用の現場にいる方々に感謝する気持ちが自然に起こります。別の言い方をすれば「支援」することに慣れてしまった私たちにとっては、彼らと共に働くのはすでに至難の業なのかもしれません。努力する当事者に対して「まだ仕事ができていない」と冷静に伝えることは、シビアに利益を追求する仕事の現場では普通のことなのです。毎日パンジーから離れた場所で仕事をしていますが、迷ったときはパンジーだったらどうするだろう？と考えています。

今回は私の思いが中心になってしましましたが、次の機会がありましたらもっと具体的な話やパンジーの当事者の就労の報告ができたらうれしいです。

(葦原)



書き損じハガキ、(未使用) 切手を送ってください!

ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていますか？ 自立生活部門ではこれらを集めて活動資金にあてています。ご協力お願いします。

ご協力ありがとうございます

<後援会費を振り込んでいただいた方>（敬称を略させていただきます）根岸将也
 <カンパ 寄付をいただいた方>

赤川由里子 小阪中学校 松野明子 石川寿美子 高井田訓練所保護者会

<書き損じはがき・未使用切手・お送りいただいた方>

宮田隆志 佐々木敏子 田村崇 高木誠子 三谷恵子

<その他> 辻本弘徳（自転車）

ありがとうございました



財団法人中央競馬馬主社会福祉財団・社団法人京都馬主協会の助成を受けて、通所バスを購入しました。（右の写真）

日産自動車シビリアンハートフルサルーン（リフト付マイクロバス）
 5,800,000 円 うち助成金 4,300,000 円



日本財団の助成を受けて車両を購入しました。配達や送迎に大活躍です。（左の写真）



BOOK 紹介

『部落解放』2004／533号 特集知的障害者の人権
 定価 630 円 解放出版社

知的障害の問題を特集で取り上げるのは初めてだそうだ。「施設から地域へ」がテーマになっている。ザ☆ハートの当事者が座談会に登場しています。また、執筆陣は知的障害を持つ人たちをとりまく環境で第一線でがんばっている人ばかりです。

内容の濃い、読み応えのある一冊です。

（よしだ）



パンジーでは、
 後援会員を募集
 しています

| | | | |
|-------------------------------------------|-----|------|-----------|
| 賛助会員 | 1 口 | 1 カ月 | 5 0 0 円 |
| 本会員 | 1 口 | 1 カ月 | 1,0 0 0 円 |
| 特別会員 | 1 口 | 1 カ月 | 5,0 0 0 円 |
| 郵便振替番号 00950-1-300551 クリエイティブハウス「パンジー」 | | | |

編集人 東大阪市東鴻池町 2-4-8
 クリエイティブハウス TEL:0729・63・8818
 “パンジー” FAX:0729・63・8825

発行人 関西障害者定期刊行物協会
 大阪市東中浜 2-10-13
 緑橋グリーンハイツ 1 階